

SV 活動最終報告

佐藤 順

指導科目：次世代ネットワーク (NGN)

活動期間：2008 年 1 月 8 日～2010 年 1 月 7 日

(1) 活動の目的

小生の指導科目は次世代ネットワーク (NGN) のプラットフォームにインテリジェントネットワーク (IN) サービスの実現するために助言することであった。NGN はご存じのように、NTT は 2008 年 4 月から一般のサービスを開始した。すなわち小生が派遣された 2008 年 1 月にはまだ日本ではサービスしていない新しい技術であった。NTT ではその 1 年前から試験を行っており、小生にとって凡そ概要は分かっていたが詳細は不明であり、本来ならば手を上げないところであるが、行けばなんとかなるという思いがあった。

というのも、今から 25 年前 (1984 年 9 月)、小生は JICA 長期専門家としてグアテマラに派遣された。指導科目はデジタル交換網計画、当時 D70 本仕 1 号が出たのが 1985 年 12 月であるから、D70 を見たこともない前に派遣されたのである。そのときもどうにかなると思った。その時と同じ気分であった。今回も研修などの資料を派遣前に収集した。

IN 機能は以前に研究所で PHS の検討をした、ときにやったことがあるので凡その仕組みは分かっていた。

しかし、NGN 上の IN 機能についてはよく分からなかった。以前に研究所に勤めていた時に知り合った方を頼り、教えて頂いた。また NGN のコンセプトの仕様の情報と国際的な動向の把握のため、ITU 勧告書などをインターネットで収集した。

(2) 活動結果と反省

派遣先はブータン・テレコム料金部門 IN システム担当であった。担当者は若い技術者 1 名 (26 歳大卒)。料金部門は 8 名 (男 4 名、女 4 名) であった。NGN は一部地域にアルカテルのシステムが導入されていた。ITU 仕様のものか分からなかったが BT では NGN と言っていた。IN システムもアルカテルのシステムが導入されていた。

小生が派遣されたときは「電話投票サービス (NTT 名称：テレゴング)」のサービスを導入しようとしていた。

日本のサービス例の紹介や、その他の IN サービス (着信課金等) も紹介したが実現されなかった。

その他、IN 機能を用いて、携帯電話ヘルプ・デスクの機能の改善を行った。

NGN については ITU の勧告を中心に社内研修を行ったが、すでに NGN が導入されていたこともあり、社内の関心は高くなかった。

2年目には、新料金システム（携帯・固定・インターネットの統一請求書発行システム）の検討や、料金問題、固定電話減少対策などを依頼されたが、料金システムが専門でなく、十分なアドバイスはできなかった。

（3）ブータンの生活

1. 言語：ブータン人はネイティブ並みに英語を話すので、1対1で話すときは困らなかった。しかし、彼ら同士で話すときは、現地語（ゾンカ）や現地語交じりの英語でほとんど理解できなかった。家庭教師を付けて現地語を勉強したがほとんど上達しなかった。

2. 食事：ブータン料理は「辛い」、「(肉が) 硬い」で有名である。赴任直後はアパートの大家さんに作ってもらったブータン料理を食べていたが、胃炎になり、更には胆石で一時帰国の際日本で手術したこともあり、自炊や外食に切り替えた。

しかし、最後はブータン料理にも慣れ、「辛さ」は気にならなくなった。しかし、歯が歯肉炎でガタガタになっており、硬い肉はほとんど丸呑みする状態であった。

3. 住まい、電気、水道、電話等

住居は家具の揃っているアパートメントホテルを借りた。庭には桃やリンゴの木があり、花が咲いてから実ができるまで自然の移り変わりを味わうことができた。

電気はよく停電した。事務所でもよく停電し、そのつどデスクトップを使用している職員から悲鳴が上がった。水道もよく断水した。

インターネットは Dial-up、ADSL、携帯 3G 機能を用いたワイヤレスのサービスがあったが、利用者からは速度が遅いとの苦情があった。総裁の話では、収入に見合ったサービス・クオリティだと言っていた。

4. ブータン人の家にも子供の誕生や、誕生日などに招待してもらい、彼らの生活や考え方にも触れることができた。あつという間の 2 年間であった。

（4）感想（ブータンの光と影）

一般にブータンは仏教信仰厚い桃源郷というイメージがある。また GNH (Gross National Happiness) の提唱国でもある。

しかし、経済の発展とともに経済格差、地方と都市との格差、若年者の失業問題、児童労働問題などの課題がでてきている。